

カリキュラム・教科書・アセスメントコンポーネント

ニュースレター（第22回）

危機的状況を克服しての SWC による承認教科書第一号の誕生！

第二年次に入っただけで CREATE の存続が危ぶまれる危機に見舞われました。これまで CREATE は 2013 年に行われた日本政府とミャンマー政府の合意内容に基づいて初等教育のカリキュラム及び教科書開発を行ってきました。すなわち、すべての教科書において教科書を作成するという合意事項です。しかし、ここに来て新教育大臣から「図工と音楽については教員が十分に教える能力を有していないため教科書を配布する必要はない」（2016年5月8日発言）や「ライフスキルと道徳・公民は社会科に統合、図工、音楽、体育の教科書は必要なく、教師用指導書のみ配布する。なお、この三教科は教科書の代わりに教室に張り出す大きなポスターを作成したい」（2016年6月8日発言）などという全く新しい路線が出されたのです。このような先が見えない状況の中、度重なる長時間にわたる議論の末、何とか「国語、英語、算数、理科、社会科については教科書を無償配布、その他の教科目については貸与」ということで決着がつけました（2016年6月14日）。ただし、教科書が重すぎるという理由から「国語、英語、算数については現行の教科書案のページ数を減らす」という宿題が課され、現在、CDT を中心に削減作業を行っています。

なお、算数については他教科に先んじて作業が終了したため、2016年6月28日に教育省主催の算数教科書会議に提出し、目出度く最終承認が下りました。CREATE における第一号完成教科書の誕生です！これまでコツコツと地道な開発を行ってこられた CDT、JICA 専門家、さらにはレビュー作業に協力頂いた SWC の先生方に感謝！感謝！

教科別カリキュラム委員会（SWC）との情報共有会議の開催

これまで CREATE では SWC の方々と年に数回アドバイスを頂いたりするものの、日頃の作業においてはほとんど関係をもってきませんでした。特に、教育省から SWC と CDT との会議には JICA 専門家の出席が認められていなかったこともあって、こうした状態が長く続いていました。実は、今回、このことが大きな問題を引き起こしてしまいました。

2016年5月初旬、新教育大臣が新しい教科書についての報告を求めてきました。この時期、まだ CREATE 第二年次が正式に始まっていなかったこともあって、教育省はこの説明を SWC の座長に委任したのです。しかし、SWC 座長は教科書開発作業にほとんど関わってきませんでしたので、大臣に対しての説明は散々たるものだったようです。これに対して大臣は「もっと SWC とプロジェクトが共同で作業をするべきである！」と怒りを表され、その結果、CDT を SWC メンバーの職場であるヤンゴン大学に移して作業を行うことを命令されたのです。

こうした状況を受けて、CREATE 第二年次開始早々の 2016年6月7日、SWC の座長と副座長を対象にした情報共有会議を開催しました。この会議では、共同作業を進めていく上で重要な CREATE の目指すもの、これまで行ってきた教科書開発の基本方針などを説明し、理解を求めました。

参加された各教科の座長や副座長からは、「こういうことだったのか！」、「CREATE の考え方がよくわかった」という肯定的な意見が沢山出され、成功裏に終わりました。

編集工程セミナーの開催

去る 2016年6月15日、教育省にて編集工程セミナーを開催しました。これまで教育省やその他関係者から CDT に対して「もっとページを減らさない」、「挿絵を1ページに収めなさい」、「この単元を削除しなさい」など様々な要求が出されており、これらの根拠や理由はほとんど示されない状況でした。要求の一つひとつを JICA 専門家の間で吟味したところ、なかには有益な意見もありましたが、



ほとんどは十分に考慮されたというよりは、個人の思いつきで出されている意見のようでした。こうした安易な意見が次々に出される背景には、編集作業に要する膨大な時間の感覚が欠けていることが分かりました。

そこで、CREATE では教育省カリキュラム課の職員及び中等教育のCDTを対象として編集工程を理解してもらうためのセミナーを開催したのです。本セミナーは教育出版の松原専門家にお願ひしました。なかでもDTP（デスクトップ・パブリッシング）はミャンマーの多くの方々にとっては初めてで、ビデオを見てもらった際には、参加者からは驚きのような声も上がっていました。セミナーの後、「コンピュータを使った編集作業はミャンマーでは初めての経験で、よい勉強になった」という声があちこちから聞こえていました。



インパクト調査、データ集計始まる

第一年次の終盤の2015年12月、急遽インパクト調査を行うことが決定しました。これは、現行の教科書を使った場合と新しい教科書を使った場合の子どもたちの能力がどのように変化するかを調べようというものです。このようなデータを収集すること自体、かなり難しいことは十分に承知した上で、時間的な制約や人材の制約などを考慮して、2016年2月にミャンマー全国から四カ所を選び出し、そこで子どもの算数能力を測りました。

第二年次からはこの業務の専属として新しく二名の専門家を迎え、現地のアルバイト学生たちの補助のもとデータ集計作業が始まりました。このデータ集計は来月には一通り終わり、9月～10月にかけて分析結果が出される予定です。

教育省主催の教育セミナー、ヤンキン EC で開催

去る2016年5月18日（14:00-16:00）、ヤンキン教員養成校で教育省主催の教育セミナーが開催されました。今回のテーマは教師教育で、ゲストとしてUNESCOとJICAが招待され、現在の業務進捗を報告しました。この会議には、教育大臣、教育省各局の局長、副局長をはじめ、教員養成学校の校長や教師ら50名ほどが参加されました。

この会議で、大臣から教師教育の将来的な方向性が示されました。CREATEの教師教育に対する協力に大きく影響してくる内容ですが、具体的な計画はまだ開始されていませんので、今後も検討状況を注視していきます。



- 2017年12月より全国22校のすべての教員養成校を四年制とする（高等教育機関となる）
- 四年制の最初の二年間は教養課程、その後専門課程に移行の予定
- 入学生はマトリキュレーション試験の上位三分の一とする
- 小学校教員と中学校教員の資格は別コースで取得されることが望ましい

文責：田中義隆（カリキュラム・チームリーダー）
編集：宮原光（プロジェクト・コーディネーター）